

安全データシート

整理番号 【158-13】

制定日 2001/01/19

改訂日 2015/12/24

1. 製品および会社情報

製品

製品名 ヒビスコールSH

供給者情報

会社 サラヤ株式会社

住所 大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門 営業本部

電話番号 06-6797-2525

緊急時連絡番号 06-6705-1013

2. 危険有害性の要約

GHS分類:

物理化学的危険性 引火性液体 区分2

健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

生殖細胞変異原性 区分1B

発がん性 区分1 (飲用に限る)

生殖毒性 区分1A

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) 区分3 (気道刺激性)

区分3 (麻酔作用)

特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) 区分1 (肝臓)

区分2 (中枢神経系)

GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル: 炎、感嘆符、健康有害性

注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

引火性の高い液体及び蒸気、強い眼刺激、呼吸器への刺激のおそれ、
眠気またはめまいのおそれ、遺伝性疾患のおそれ、発がんのおそれ (飲用に限る)、
生殖能または胎児への悪影響のおそれ、長期にわたるまたは反復ばく露による肝臓の障害、
長期にわたるまたは反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

注意書き:

【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
換気のよい場所でのみ使用すること。
必要に応じて保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急処置】

皮膚についた場合：皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

汚染された衣服を脱ぐこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用
して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける
こと。眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当を受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い場合：医師の診断、手当を受けること。

【保管】

換気のよい場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を自治体のルールに従い廃棄すること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性：

引火しやすい液体、蒸気は空気と一定量混合すると爆発性混合ガスとなる。

工業的には比較的無害の溶剤と見なされるが、蒸気を吸入すると麻酔剤として働き、
繰り返さらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍磨、頭痛などを起こす。

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分：クロルヘキシジングルコン酸塩、エタノール、アジピン酸ジイソブチル、
アラントイン、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸グリセリル、
安息香酸デナトニウム

化学名または一般名：エタノール（CAS番号64-17-5）72.3 w/w%含有

濃度：有効成分 クロルヘキシジングルコン酸塩0.1 w/v%

4. 応急処置

吸入した場合：

直ちに患者を空気の新鮮な場所に移し、安静にする。

ひどい場合は直ちに医師の手当を受ける。

皮膚についた場合：刺激を感じた場合は水で洗い流す。

眼に入った場合：

すぐに水またはぬるま湯で洗う。

症状が重い場合には眼科医の手当を受ける。

飲み込んだ場合：

水を飲ませて、医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤：

水、粉末、炭酸ガス、泡（耐アルコール泡）

火災時の特定危険有害性：

少量の水での消火は、火災を拡大させる恐れがある。

消火方法：

初期火災には、大量の水を噴霧、又は上記の消火器による消火を行う。

大規模火災発生時は、大量の水を噴霧または泡消化剤による空気遮断にて消火を行う。

消火を行う者の保護：

防災耐熱性保護具、マスク等

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：

保護眼鏡、ゴム手袋等を着用し、接触および吸入を避けること。

環境に対する注意事項：

少量の場合は、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合は、漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

二次災害の防止策：

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い：

取り扱う場合、換気を十分におこなう。

火気に近づけない。

キャップを開けるときの液が飛び出す恐れがある。

また、容器を移動するときは、キャップをしっかり閉める。

緩んでいると、液がはねて目や皮膚に付く恐れがある。

移し替える場合、専用容器にその品名と注意事項を明記する。

保管

適切な保管条件：

直射日光の当たらない涼しい所に密栓して保管すること。
小児の手の届かない所に密栓して保管すること。
消防法上の貯蔵設備で保管し、通風をよくし蒸気が滞留しないようにする。
また、指定数量未満のものについても、火気その他危険な場所から遠ざけ
通風をよくし、温度、湿度、遮光に注意し、冷暗所に密栓保管する。
指定数量については、地方自治体の条例により定められていることが
あるため、管轄の消防署に確認する。
非危険物又は消防法の第1類および第6類の危険物と混合貯蔵を禁止する。

8. 暴露防止措置および保護措置**設備対策：**

取り扱いについては、火気のない換気のよい場所で行う。
照明設備は防爆型のものを使用する。

管理濃度：管理濃度なし

許容濃度：設定されていない

保護具：

必要に応じて防毒マスク、保護眼鏡、ゴム手袋、ゴム前掛け、安全靴を使用する。

9. 物理的および化学的性質

外観：無色透明液体

臭い：エタノール臭

融点／凝固点：−5.7℃

沸点：80℃

引火点：21.4℃（セタ密閉式）

発火点：318℃

蒸気圧：5.31 kPa（39.8 mmHg）：20℃

比重：0.855～0.875：15℃

10. 安定性および反応性**安定性：**

常温においては安定である

危険有害性反応可能性：情報なし

避けるべき条件：

火気その他発火源への接触、衝撃、高温を避けること

11. 有害情報

急性毒性：分類できない

皮膚腐食性/刺激性：分類できない

眼に対する重篤な損傷/刺激性：区分 2 A（強い眼刺激）

呼吸器感作性/皮膚感作性：分類できない

変異原性：区分 1 B（遺伝性疾患のおそれ）

発がん性：区分 1（発がんのおそれ）（飲用に限る）

生殖毒性：区分 1 A（生殖能又は胎児への悪影響のおそれ）

特定標的臓器/全身毒性－単回暴露：区分 3（呼吸器への刺激のおそれ、
眠気またはめまいのおそれ）

特定標的臓器/全身毒性－反復暴露：区分 1（肝臓の障害）

区分 2（中枢神経系の障害のおそれ）

吸引性呼吸器有害性：分類できない

催奇形性：情報なし

代謝：情報なし

労働安全衛生法

通知対象物質（No. 61）エタノール 72.3 w/w%含有

12. 環境影響情報

生態毒性：情報なし

残留性・分解性：情報なし

生体蓄積性：情報なし

土壤中の移動性：情報なし

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌攪乱物質
（いわゆる環境ホルモン）と位置付けした指定物質は一切配合していない。

13. 廃棄上の注意

「7. 取り扱いおよび保管上の注意」の項を参照のこと

残余廃棄物：廃棄物処理業者に処理を依頼する

使用済容器：容器を水洗いしてから自治体のルールに従い処理する

14. 輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

国際規制

国連分類：引火性液体（クラス 3、容器等級 II）

国連番号：1 1 7 0

国内規制：消防法により、第 1 類および第 6 類との混載禁止
輸送時はイエローカードを保持すること。

15. 適応法令

労働安全衛生法（安衛法）：

薬事法の適用を受けるため、通知対象物質に該当しない

化学物質管理促進法（P R T R 法）：該当しない

航空法：施行規則第 1 9 4 条 3 引火性液体

毒物及び劇物取締法：該当しない

消防法：

危険物第 4 類アルコール類（エタノール） 水溶性・危険等級 II

医薬品医療機器等法：指定医薬部外品に該当

食品衛生法：該当しない

16. その他の情報

参考文献

G H S 混合物判定ツール（経済産業省）

- ・ この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 - ・ 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 - ・ 注意事項は通常取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
 - ・ すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-